

日高団地地域おたすけ隊

お互いさまで助け合えば、 うれしさふくらむ。

毎日暑いし、生活必需品の値段は上がるし、やっている状況が続いている。節電情報なども出ていますが、健康を害しては元も子もありません。特に高齢者にとっては冷房装置は命綱ですから、上手に活用した方がいいですね。

さて、話は変わりますが、日高団地に「地域おたすけ隊」という組織があります。主な活動は、病院、買い物などへの付き添い、ゴミ捨て、庭の手入れ、部屋の掃除など。地域のお困りごとに対し、ボランティア精神でお手伝いするしくみです。

「活動を通して地域の皆さんと仲良くなれますし、感謝の言葉をいただくことがやりがいになっています」が協力会員の皆さんで口をそろえて言う感想。年齢や体力、得意分野に応じたさまざまな活動があり、何よりも人のために働く喜びを重ねていくことができます。

一方、「利用させていただくことで、おたすけ隊の方とお話しできることがうれしい♥」と話すのは、取材のために足を運んでくれたご利用者の遠山さん。人と会う約束が暮らしを豊かにしてくれるそうです。

現在、「地域おたすけ隊」の仲間(協力会員)を募集中。お互いさまで助け合うような地域になれば、みんなが安心して暮らせるまちになりそう。空いている時間を地域で困っている人のために活かすのもいいですね。

仲間(協力会員)になりませんか!

■ 日高団地地域おたすけ隊 / 月、火、水、金 9:00~15:00
090-4944-4699

住めバ日高

日高市の東端にある日高団地。高度成長期から平成にかけて働き盛りだった人々が便利に暮らしたこのまちが気になっていました。そんな時、住民による居場所づくりのプランを知り、当紙発行を思い付きました。取材の手伝いや、情報・写真を提供してくれる仲間を求めます。特に若い人、歓迎です。

文化新聞購読のお申込みは、株式会社ブラウズ(042-973-2525)まで。



上/無理のないペースで活動します。

左/暑さ対策のシートを貼り付けています。

住めバ日高



日高団地は、高度成長期に市内で最初にできたニュータウン。高速道路 IC や幹線道路からも近く、利便性に優れていますが、大型ショッピングセンターが近隣にオープンし、活気にあふれていた商店街は、おとなとこどもが平和に暮らす、静かなまちになりました。



の空 / 写真提供：代 政雄(日高市高政東)

みどりやさんのサロン　日高団地地域おたすけ隊

日高団地自治会様のご厚意により全戸配布しています。

みどりやさんのサロン もういちど、 青春のまち。

現段階で使用できるのは、通りに面したオープンデッキと隠れ家風の空間。

動かないと、はじまらない

「確かにみんな歳を取ってしまったけれど、このまま大人しくしてばかりもいられない」

スーパーみどりやの社長、柳川義和さんの話を聞くと、そんな意気込みが伝わってきます。

柳川さんとの接点は、文化新聞の連載記事「のこしたい店・たのしみな店」の取材がきっかけ。~高齢化が進みつつある地域に、歩いて行ける距離にある小さなスーパーこそが、重宝する。昭和の香りが漂うスーパーながら、品揃えの豊富さに驚く。~と紹介しました。

スーパー経営は、実に用事が多そうです。仕入れから、在庫管理、品出し、値付け、レジ打ち、清掃、経理事務まで、あれこれ仕事をこなさなければなりません。打ち合わせに行っても、ゆっくり話せたことはなく、いつも忙しく動きまわっています。



昔懐かしい音楽談議で盛り上がりました。

多忙な身でありながら進めていたのが、旧店舗があった建物をセルフリノベーションし、地域の皆さんの寄合い＆遊びスペースする試み。それがなかなか凝った装いで、通りに面したオープンデッキやカウンター付きのバーのような一角、隠れ家風の空間などをプランし、改裝作業に励んでいました。

ニュータウン住民の少子高齢化は、あちこちの地域にある現実です。解決するのは簡単ではなさそうですが、柳川さんの「何とか地域を盛り上げたい」という姿勢に共感し、余計なお世話ながら「住めバ日高」を発刊するに至りました。



心地よい音色がサロンにひろがりました(ちなみにウクレレは40万円!)。

ここに来れば、何かができる

珍しく手が空いていたのか、取材に柳川さんが合流。取材相手は、中山明徳さん。長年ウクレレ演奏を嗜んでこられた方で、ウクレレ持参で駆けつけてくれました。

中山さんがウクレレを始めたのが16歳の時。「若くして、どうしてウクレレ?」と不思議に思い、質問すると、「当時はハワイアンやウエスタンが流行ってい



ギャラリーとして、シェアオフィス、お教室としてアイデア募集中です。

た」との答え。進駐軍が幅を利かせている時代で、音楽シーンもアメリカへの憧れから成り立っていたようです。若き日の中山さんがウクレレにはまったのも、当時としては当たり前で、渋谷や六本木などのライブハウスに出入りしていたといいます。

その後、大手電機メーカーに勤めますが、社内でも音楽バンドを結成。工場移転により日高団地で暮らすようになってからも、趣味としてウクレレを続けて来られたそうです。

一方、柳川さんは、まちを盛り上げてくれるような技を持った住民をリサーチ中。「来店者に声を掛けたら、絵描きさんとか、日高団地には魅力的な特技がある方が多く住んでいることがわかりました。中山さんもそのうちのお一人なんです」と、うれしそうに話します。

取材現場に集まっていたのは、サロンを楽しみにしている方々。中山さんがウクレレを披露してくれたのですが、手にしたのは久々だそうで、柳川さ



特技を持ち寄り、楽しみを生み出す場所に。やんちゃな年寄りが集まっています。

んに声を掛けられ、取って置きのウクレレに弦を張り、持ってきてくれたのでした。



こちらは貸店舗ゾーン。例えば、こんなタペストリーを掲げたら、楽しいかも(想像図)。

みんなで、今を楽しむ場所に

サロンには5つのゾーンを設置予定。柳川さんの基本方針は、仲間を増やしつつ自分自身が楽しめる事。徐々に知られ始めていて、オープンデッキではひと休みする住民の姿が見られます。

サロンとは別に貸店舗ゾーンもあります。年配の方はご存知と思いますが、以前共同店舗があった所です。ちらの方は、狭山市から移転してきた藤村学さんによる「お楽しみ処・紙芝居館」が先んじてオープン。子どもの居場所を提供する取り組みがスタートしています。

●お問い合わせ(アイデア・情報提供もお気軽に)
スーパーみどりや 042-989-1093